EA5

ラオス国で採集した特異な形態を有する未記録の蚊、*Tripteroides* sp.について ○宮城一郎¹、岡澤孝雄²、當間孝子¹、小林潤³、サムラ・ボンピダ⁴、シモン・ナムバニヤ⁴、ホンカム・ケオマニラ⁴ (¹琉球大・医・保健、²金沢大留学生センター、³琉球大・医・寄生虫、⁴ラオス厚生省・マラリア寄生虫昆虫研究所)

ラオス国の蚊相はほとんど明らかにされていない。我々は文部省科学研究(国際学術)の助成を受け、1999年よりラオス国・カムアン県のマラリアの疫学的調査を3回実施してきた。この間に採集・同定した蚊は約76種である。その中で特異な形態を持つ未記録の蚊を見出したので紹介する。

Tripteroides sp. near *Tripteroides* (*Rachionotomyia*) *edwardsi* (Barroud), 1929

本種の成虫は頭・胸背部は黒紺碧の光沢を呈し、Mesopostnotumに数本の微細毛を有することで*Heiznamia*属に、また、触肢が長く、吻が太く、先方が下方に緩やかに曲がるなどで、一見*Armigeres*属の蚊に似ている。検索の結果、雄成虫だけで記載されているインド産の*Tripteroides edwardsi* (Barroud)に酷似する新種であることが明らかになった。Mattingly(1981)は躊躇いながら*Tr. edwardsi*を*Tripteroides*の亜属*Rachionotomyia*に入れている。手許のラオスの種は*Tr. edwardsi*と同様に触肢が長く(0.8mm、吻の0.32倍)、胸側や腹板は白色の鱗片(雪色)で密に覆われ、Mesopostnotumに数個の白色の鱗片と微細毛を有するなど著しい特徴を有しており、これら2種を包含する新亜属を設けることが妥当と思われる。本種の成虫、幼虫の形態的特徴を写真で示す。

EA6

ラオス国・カムワン県におけ蚊相と未記録種、*Tripteroides* (*Rachionotomyia*) sp.の生態 ○岡澤孝雄¹、當間孝子²、宮城一郎²、小林潤³、サムラアン・ボンピダ⁴、シモン・ナムバニヤ⁴、ホンカム・ケオマニラ⁴ (¹金沢大・留学生センター、²琉球大・医・保健、³琉球大・医・寄生虫、⁴ラオス・厚生省マラリア寄生虫学昆虫学研究所)

東南アジアの内陸国、ラオス人民共和国の中部にあるカムワン県において、1999年8~9月、12月、2000年1月、8~9月に蚊の調査を行った。約130水域での幼虫採集、7つの村での人囷法、動物囷法による成虫採集によって合計76種の蚊が得られた。内訳は*Anopheles* 31、*Culex* 20、*Aedes* 12、*Topomyia* 5、*Tripteroides* 3、*Uranotaenia* 2、*Malaya*、*Toxorhynchites*、*Mansonia*各1であった。その内25種はラオスにおける新記録種で、2種、*Tripteroides* (*Rachionotomyia*) sp. 及び *Topomyia* (*Top.*) sp. は未記録種であった。*Tr. (Ra.)* sp. は*Rachionotomyia*亜属の*edwardsi*グループに属する。今までこのグループの蚊としてフィリピンとインドからそれぞれ1種知られているが、成虫雌または雄のみで記載された。*Tr. (Ra.)* sp. は成虫雄雌、蛹、幼虫の全てのステージで形態が分かった最初の種である。この種の幼虫は主にアリによってあけられた小穴のある竹節のみに数個体、時には数十個体が棲息するが、他の種の蚊と一緒に出現することは非常に稀であった。幼虫は竹節の底に溜まった残渣を餌としているが、生育は遅く、成虫になるまで数カ月を要することもある。成虫は無吸血で約150個の卵を成熟させることから、無吸血産卵をするものと考えられる。成虫は通常のサイズのケージ(30cm立方)では交尾はしない。

EA7

ラオス中部(Thakhek 及び Nongbok)における Dengue 熱媒介蚊の発生源と幼虫の天敵相 ○津田良夫¹、小林潤²、Samlane Phompida³、Simone Nambanya³、宮城一郎⁴、當間孝子⁴、Chum Chomchaleum⁵ (¹長崎大・熱研、²琉大医寄生虫、³CMPE、Lao PDR、⁴琉大医保、⁵Khammouane Provincial Health Office、Laos PDR)

ラオス中部メコン川に面した Thakhek 市及び Thakhek 市の南約 38km に位置する Nongbok 村で、2000 年 6 月に Dengue 熱媒介蚊の発生源と幼虫の天敵相調査を行った。それぞれの地域で戸別訪問によって幼虫発生容器の種類及び数、屋内外に設置した Ovi-trap への産卵数を調べた。Thakhek 市の 125 軒 547 容器、及び Nongbok 村の 136 軒 655 容器から、17,484 頭の幼虫が採集された。両地域で合計 8 種類のボウフラが採集され、Dengue 熱媒介蚊としてはネッタイシマカの割合が最も高かった。ネッタイシマカについて求めた Container index 及び House index はそれぞれ Nongbok 村で 51.8%、94.9%、Thakhek 市で 40.2%、75.2%で、Nongbok 村の Container index は有意に高かった。天敵として確認されたのは、昆虫類 4 種、ミジンコ 1 種であった。Ovi-trap への産卵数には有意差はなかったが、ネッタイシマカの割合は Thakhek 市で 92.4%と Nongbok 村の 73.0%より高かった。発生容器の種類構成は 2 地域で大きく異なり、Nongbok 村では貯水用の水瓶の構成割合が高く、Thakhek 市ではドラムカンや廃棄された小容器が多かった。

EA8

ラオス国カムワン県のマラリア流行地における ハマダラカの調査(1999年) ○當間孝子¹、宮城一郎¹、岡澤孝雄²、才田進¹、小林潤³、高木正洋⁴、シモン・ナムバニヤ⁵、ホンカム・ケオマニラ⁵ (¹琉球大学・医・保健、²金沢大学、³琉球大学・医・寄生虫、⁴長崎大学熱研、⁵ラオス国立マラリア、寄生虫、昆虫センター)

文部省の科学研究費(国際学術調査)により、ラオスのカムワン県マラリア流行地でハマダラカの調査を行っている。1次調査1999年7月~8月(高温、雨期)の結果については、昨年の日本衛生動物学会大会で報告した。今回は予備調査として行った1999年3月(高温、乾期)と2次調査12月(低温、乾期)の結果について、1次調査の結果と比較をしながら報告する。予備調査は県庁所在地タケク市近郊のセパンファイ郡と遠隔地のボラバ郡の3部落で行い、2次調査は両地域の4部落で蚊の採集を行った。

予備調査の遠隔地での人囷法では、*An. philippinensis*が多く採れ、ついで*An. nivipes*が多かった。第2次調査のタケク近くの村での動物囷法では、*An. philippinensis*が多く採集され、つづいて*An. nivipes*が採れた。両種の合計は85.1%であった。人囷法による採集を3夜行い、1個体を採集したのみであった。遠隔地ボラバ郡での動物囷法では、*An. minimus* Aが46.5%で最も多く、ついで*An. sawadwongponi*が多かった。人囷法では*An. minimus* A、*An. sawadwongponi*が多く採集された。

1年間を通して行った調査結果から、場所、時期で多く採集されるハマダラカの種が異なることが明らかになった。